

「食品リスクコミュニケーションワークショップ(2009.2.20)のご報告」

2009年3月16日

徳島大学総合科学部教授 関澤 純

(食品総合研究所の特別研究員:4月以降)

もうすぐ桜もちらほら咲く頃ですね。

さて、NPO法人食品保健科学情報交流協議会主催、日本リスク研究学会「食の安全とリスク研究部会」共催のワークショップは、2月20日午後1時半～5時、銀座ブロッサム(中央会館)で生産者、消費者、報道関係者、食品行政関係者、および研究教育関係者の方々45名の方のご参加を得て開催し、時間が足りなくなるまで活発なご討論をいただきました。

はじめに「考えよう。食品安全情報のあり方—わかりますか用語の意味—」と題して、徳島大学関澤純教授による講演と本ワークショップの説明がありました。その後、5つのグループに分かれ、食品安全情報のあり方について、食品安全委員会の提供する用語解説の理解と、情報提供における報道の役割などについてグループ討論を行いました。

以下のページには、当日出されたご意見の要約をそのまま以下に掲載します。情報提供は相手の理解度や関心に応じて、適切な方法と内容で提供されるべきではないかとの視点から、ご意見は消費者や生産者などのご所属別にまとめて見ました。これらのご意見も参考にして、食品安全情報のあり方についてさらに討論を発展させてゆきたく思います。ご参加いただいた皆様には深く感謝しますと同時に、このような機会を今後も継続してゆきますので、さらに多くの方のご参加をお待ちします。

私事で失礼しますが、関澤は、この3月末で徳島大学を定年退職いたします。4月からは独立行政法人食品総合研究所の特別研究員として引き続き、食品安全のリスクコミュニケーション研究に携わります。

本ホームページは <http://syokuanzen.abccsl.net/findex.html> で継続してゆきますのでご愛顧をよろしくお願いいたします。

「食品リスクコミュニケーションワークショップ(2009.2.20)」でのご意見の要約を紹介
します。

ご感想やご意見がございましたらお手数ですが、下記メールアドレスにお知らせください。

jjsekizaw@tc.catv.ne.jp 関澤 純

☆用語集に対する要望

(業者、団体関係)

- ・ 具体的例を。
- ・ 対象者別に。
- ・ HP上で、双方向性を。書き込みが出来るように。内容についてのパブコメを
- ・ イラストいり。
- ・ 報道、消費者と共有できるものを。
- ・ 目的が不明確。⇒受け取る相手によりこの定義では解かりにくい。

消費者向けの更に詳しい解説が必要。完全無欠型官庁文書。漢字が多い。

説明文中に説明の必要な用語を使用。⇒カッコ書き活用

文章の手直し等、改善の要有り。

- ・ 消費者向け解説集を

安全安心の基本的考え方を説明し消費者向けに必要な用語のみ集め解説。

意見交換会出席者のような消費者は知識もあるが消費者は様々である。

もっと勉強すべき。

(消費者、研究)なぜ解かりにくいのか？

①目的について

- ・ 安全委員外の利用を想定していない。
- ・ 「はじめに」の中で用語集の位置づけの説明がない
- ・ 用語集の目的が不明確
- ・ 利用者を明確に想定していない
- ・ 対象者別の編集が必要
- ・ 表現が難しく、消費者が読む本ではない

②編集方針について

- ・ 編集方針を明確にし、立場を明らかに

- ・一般消費者に査読してもらう
- ・Reference (引用元) を明確に

③説明について

- ・説明が固い
- ・使用場面を想定した説明でない
- ・他分野と用語が異なる
- ・他分野の用法も説明して欲しい
- ・ゼロリスク的状态を示す言葉がない
- ・かみ砕いた説明が欲しい
- ・図を用いた説明が欲しい
- ・引用元がない(勉強したい時に困る)
- ・疑心暗鬼になる表現 (・・・のみ、・・・など)
- ・ルビのふってある言葉とないのがある

④使用法について

- ・ナビゲーターが必要
- ・クイズ形式で消費者に考えてもらう

⑤アクセスについて

- ・どこで入手できるか不明
- ・保健所でもらえないか
- ・スーパーに置いてはどうか
- ・HP で入口別に別編集のものを提供

(報道関係)

「ハザード」について

- ・安全委員会の用語集の問題点
抽象的。正確性を追求するあまり項目を網羅しすぎ。文章が長い。漢字が多すぎ
- ・改善案
わかりやすくなっている。(具体的、一文が短く簡潔)
- ・更なる改善の要望
文頭に「食品中の」を入れる。「可能性の原因」が解かりにくい
⇒可能性のあるもの、悪影響を及ぼす原因 (リスクの説明と合わせて)

☆報道について

- ・不安のあおりをしないで欲しい
- ・誤った報道に対しては、自信を持って正す
- ・マスコミは受け狙いが多い ⇒点狙いでなく、線の報道を
- ・基準値の報道の問題

基準値の意味も含めての報道を（特に一律基準について）

正しい報道とわかりやすい報道は異なる。

さらに過不足なく伝えることが大切

現実具合のよい言葉のみ使用している。

- ・事故品の安全性については食品安全委員会が意見を出すべき
⇒現在食品安全委員会はその機能を持っていないならその機能を持つべき。
- ・食の安全は、現在の科学で安全と言えるだけ。
- ・行政も事業者も情報開示すれば報道はゆがまなくなるか？

（報道関係）

- ・報道の役割は何か？

記者は識者リストをもっており、識者に意見を聴く

記事についてデスクのチェックを受け外部審査もある。

- ・事故米についてはコンプライアンスと安全性が混乱した
「基準値を超えていること」と「健康リスクはないこと」
報道はどちらも伝えなければならない。
- ・記事の配置の問題。⇒注目を集める配置を選ぶ

見出し、トップに「基準値を超える」が来て説明文の後段で「健康リスクなし」

☆農薬検出記事の報道について

- ・A：基準の○倍（物差し）、
B：○ppm（実際の量、程度） ⇒A、Bいずれも消費者は実態を理解できない？
⇒汚染米毎日○kgまで食べないと問題は発生しないレベルといえれば理解できる。
行政がきっちりとした情報を出せばよい。 ⇒食品安全委員会への期待
未知のものは誰に聞くか

(消費者、研究)

- 行政への注文 (レベルに違いあり)

消費者ニーズを的確に把握を(目線)

情報を解りやすく提供する

コストや経済面の情報

法律と現状との整合をすばやく

- マスメディアへの注文

センセーショナルな伝え方だけでなく公平な報道(対立意見の併記等)

- 教育

生活と科学の乖離を埋める

- 消費者

共に学習する場を(反対するだけでなく受け入れることも必要)

ご案内

「考えよう。食品安全情報のあり方ー わかりますか用語の意味」

徳島大学総合科学部 関澤 純

関澤研究室の「食品安全の広場」<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/envchem/welcome.htm>の参加型の質問回答による食品安全情報の適切な共有へのご協力ありがとうございます。

昨年末に始めた食品安全委員会提供による用語解説のご理解と改善の試みには、すでに200名近くの方からご意見をいただきました。頂いたご意見も参考に一堂に会した討論の場を計画しました。ご関心のおありの方は下記によりお申し込み下さい。

主催： NPO法人食品保健科学情報交流協議会

共催： 日本リスク研究学会食の安全とリスク研究部会

日時： 2月20日午後1時半～5時

場所： 銀座ブロッサム(中央会館) 〒104-0061 東京都中央区銀座二丁目15番6号
電話 03-3542-8585 来場には下記サイトを参照下さい。

<http://www.city.chuo.lg.jp/sisetugaido/horu/ginzaburossamu/index.html>

参加希望の方は下記までお申し込み下さい。無料ですが討論のため先着40名までとします。

テーマ

(1) わかりますか？食品安全委員会の用語解説

(2) どう考えますか？新聞報道に見る誤解をあたえる記述と情報のあり方

趣旨

「ゼロリスクはない」は何を伝えたいのですか？「残留基準の数倍の農薬が検出されたのに『健康に影響ない』とは？」「健康に影響はないのに回収や謝罪広告までする必要はあるの？」「賞味期限表示の意味と書き換えはどうして？」「産地偽装はなぜ起きる？ブランド指向との関係は」など。

食品安全をめぐる消費者の不安と不信は治まりそうにありません。なぜこのようになってしまっているのでしょうか？不信と不安の増幅ではなく、それぞれの理解と意見を率直に交わすことで、相互理解を深め、新たな信頼構築を目指そうではありませんか？最新の研究成果を元に、人を困惑させる情報のあり方についてグループ討論をし、結論の共有を図ります。

お申し込みは下記にお願いいたします。

NPO法人食品保健科学情報交流協議会(食科協) URL: <http://www.ccfhs.or.jp>

〒135-0004 東京都江東区森下3-14-3 全麵会館2F

TEL/FAX 03-5669-8601 e-mail 8.shokkakyo@ccfhs.or.jp